

夢のつばさ♥プロジェクト 平成28年度 事業報告書
2016年4月1日～2017年3月末

1. キャンプ

(1) 夏キャンプ

【実施期間】2016年8月6日～8月9日

【開催地】(株)ブリヂストン保養所 奥多摩園 (青梅市)

【参加内訳】子ども24名、学生ボランティア48名(途中入替わりを含む)、社会人ボランティアスタッフ・協力者19名

【主な内容】

8月 5日	開会式、アイスブレイクゲーム、音楽会(声楽・テノール、バイオリン)
8月 6日	朝の勉強会、夏遊び、Y-1グランプリ(紙飛行機の的当て、トランプカードピラミッド、ロゴコンテスト、万歩計振りカウント競争)
8月 7日	朝の勉強会、木の組み立てハウス制作、工場見学
8月 8日	閉会式、写真スライドショー

(2) 秋の交流会

【実施期間】2016年10月23日

【開催地】宮城県仙台市(仙台市民会館、西公園、青葉区中央市民センター)

【参加内訳】子ども16名、保護者3名、学生ボランティア27名、社会人ボランティアスタッフ4名

【主な内容】夏・冬の宿泊キャンプに参加した子どもと心の交流を続けるために被災地で行う日帰り活動。午前中は仙台市民会館の調理室でお弁当作り。午後は公園でピクニック、レクリエーション。学生の代表数名が保護者の方たちと話し合う機会も設けた。

(3) 冬キャンプ

【実施期間】2016年12月23日～26日

【開催地】(株)ブリヂストン保養所 奥多摩園 (青梅市)

【参加内訳】子ども25名、学生ボランティア44名(途中入替わりを含む)、社会人ボランティアスタッフ・協力者18名

【主な内容】

12月 23日	開会式、アイスブレイク、子どもミーティング
12月 24日	朝の勉強会、ハガキ作り、木の組み立てツリー制作、クリスマス会、音楽会(声楽・ソプラノ、マリンバ、フルート)
12月 25日	朝の勉強会、ハガキ仕上げ、奥多摩園内オリエンテーリング、子どもミーティング
12月 26日	閉会式、写真スライドショー

(4) 2016年春の交流会

【実施予定日】2017年3月19日（日帰り）

【開催予定地】宮城県仙台市台原森林公園、太白区中央市民センター

【参加者内訳】子ども15名、保護者2名、学生ボランティア23名、社会人ボランティアスタッフ4名

【主な内容】午前中は公園で写真を撮影して課題をクリアするゲーム、午後は太白区中央市民センターにてゲームやドッジボールなどを実施。また中高生有志による「夢のつばさのキャンプについての意見交換会」を実施（全員で奥多摩園施設をダイナミックに使って遊びたい。鬼ごっこ、風船チャンバラ、人文字、テーマ曲作成、手作り巨大絵本などの企画案）。七回忌の時期となった今回は、保護者の方たちは震災を振り返っての体験談もお話しくくださった。子どもたちが様々な抑制された状況にあって集中力を欠き、勉学に身が入らないことも伺って、ニーズにも応えていきたいとの想いを強くした。

2. その他事業

(1) 広報活動

以下のイベントで夢のつばさプロジェクトの活動紹介を行った。

日時	イベント（実施者）	対象	場所
2016. 4. 18	東京女子医科大学看護専門学校（滝澤）	看護学生 約80名	東京都
2016. 5. 28	田園調布学園土曜プログラム（滝澤）	中高生 約30名	東京都
2016. 7. 30, 31	たまプラーザ夏祭り（学生）	一般不特定多数	横浜市
2016. 8. 3	日本の次世代リーダー養成塾（室伏）	高校生（194名）、教員等 約300名	宗像市
2016. 10. 13	徽音祭（学生）	一般不特定多数	東京都
2016. 11. 14	豊洲市民マラソン（学生）	一般不特定多数	東京都
2017. 2. 17	日本学術会議・富山房インターナショナル共催 第121回サイエンスカフェにて（室伏）	一般 約50名	東京都

(2) ボランティア学生及びOG・OBの活動

本年もボランティアの大学生らは、週に1回、お茶の水女子大学内で会合を開き、夏・冬のキャンプや秋・春の交流会の企画・準備を行い、イベント終了後には振り返りの会を開いて、経験を積み重ねている。学年交代に伴う継承も良く図られ、細やかな配慮のある活動ができています。本年はお茶大生が大半を占め、男子学生の参加が少なかった。

イベントの間には子どもたちへ誕生日カードを送ったり、近況を報告しあう新聞を作成したりして交流を図っており、子どもや保護者から好評である。夢のつばさプロジェクトの広報や活動資金獲得についても自主的な活動を続けている。たまプラーザ商店街の夏祭り、豊洲市民マラソンに有志が参加してイベントを手伝い、広報・寄附活動を行った。

OB・OGは積極的に学生の会議にも参加しはじめており、経験を活かして「OB・OGによる実施企画」案作りなどにも取り組むようになってきている。社会人グループと学生グループを繋ぐ役割を目指しており、学生グループの上部組織的な状況になりつつある。学生も様々な決定にOB・OGのアドバイスを求めてこれまでよりプロジェクト全体の意思疎通にやや時間がかかっている印象があるが、今後どのように位置づけられていくか見守っている。

3. 総括

昨年度にひきつづき、活動は順調に進められている。東北3県各地の教育委員会や児童家庭課等を通じて一般に募集を行っており、イベント終了後には各教育委員会へ連絡報告を行って連携を取っている。平成28年度、新たに参加した小学校1年生は、下に年子の兄弟2人があることが分かり、末子がお腹の中にいたときの被災で夫を亡くされたと思われる。事務局との連絡・やりとりにおいても母親がたいへん若くて心許なく、保護者への配慮、支援も考えていかなければならないと感じた。昨年度も「夢のつばさの活動がこれからも孤児・遺児家族に、なんらかの役割を果たせるのではないかと報告したが、保護者からも学習支援や、生活指導への希望も多く寄せられている。夢のつばさが目指す、子どもの自律を育むプログラムの重要性がさらに増すと思われる。

平成28年度末には、平成23年の活動開始から継続して参加してきた男女2名が卒業を迎え、それぞれ専門学校への進学を決めた。高校卒業お祝い金を贈り、また奨学金の授与を運営委員会にて内定し、4月よりこの2名に月額1万円（使途を定めない、返済不要）を給付している。両人とも仙台の学校に進学するため、夢のつばさプロジェクトの平常時の活動に参加することは難しいが、夢のつばさへの信頼も厚く、今後もイベントにスタッフとして参加したいとの意思を示している。

夢のつばさプロジェクトは、2017年3月締めで（2016年度）、のべ20団体、個人137名（2015年度：19団体153名、2014年度：22団体217名）からご寄附をいただいた。東日本大震災から丸6年を迎え、個人寄附者数及び寄附金額は減少が続いているが、継続してご支援くださる方や団体、企業などに支えられて活動を続けている。ご寄附の方へお送りする夢のつばさ通信は10月に第9号、3月に第10号を発行した。